

さくら市議会広報委員会視察研修報告書

議会広報委員会では、令和4年3月24日、島根県浜田市議会広報公聴委員会の皆様に「議会だよりの紙面づくり」について研修を行っていただきました。

参加者は、加藤朋子副委員長、高瀬一徳委員、吉田雄次委員、岡村浩雅委員、石原孝明委員、福田克之委員、角田憲治委員、小堀勇人委員、事務局職員1名、そして私、委員長の大河原千晶であります。

なお、今回の視察研修はコロナ禍での視察研修ということで感染拡大防止の観点から、オンライン会議システム『zoom』を用いての研修という初めての試みで行われました。

詳細は以下の通りです。

浜田市議会

概要

浜田市は、島根県西部の中央に位置し、県庁所在地である松江市と道路距離で124kmの位置にあります。地勢は市の大部分が丘陵地や山地で、中国山地が日本海まで迫り、また切り立ったリアス式地形と砂丘海岸の織り成す海岸線は、優れた自然景観と天然の良港をもたらしています。また、地域の知的財産として島根県立大学を有し、国内にとどまらず世界各地から学生や研究者が集まってきます。そこから、開かれた大学として、公開講座、フィールドワークなどを通じて情報発信や地域・市民との交流が生まれています。他にも石州半紙のユネスコ無形文化遺産への登録、北前船寄港地「外ノ浦」や石見地域で伝承される神楽の日本遺産認定など、浜田市の多彩な地域資源を最大限に発揮できる「住みたい 住んでよかった魅力いっぱい 元気な浜田 ～豊かな自然、温かい人情、人の絆を大切にすまち～」を目指しています。

研修内容

今回の研修はコロナ禍での実施ということも鑑みオンライン上で行われ、①浜田市議会議会広報公聴委員会活動について②議会だよりについて③動画配信と議会のICT化についての3つについて学びました。

広報公聴委員会のスローガンは「“議会をより身近に”」で、委員会が編成される際に、任期中のスローガンとして定められます。新しい組織で最初にスローガンを決め、その任期中の方向性を委員会全体で共有できる所がまず素晴らしいと感じました。そして、そのスローガンをもとに現在進行形で展開されている活動は「広報」と「広聴」の二つの観点からなされており、その手法についても細かく展開されています。「広聴」で収集した情報をどう扱ったかを議会視点を盛り込みながら「広報」で伝えていくという循環の仕組みがしっかりできていることが印象的でした。

例えば、議会活動を伝えるうえで大きな役割を果たす「議会だよりに」には読者アンケートのコーナーを設け、そこに寄せられた意見は各所管の委員会に振り分けられ、各委員会で対応等を協議→経過及び結果を報告→全員協議会等で回答内容を共有→そこから議会だよりにや議会HPで回答を公開し、市民に戻すという循環です。読者アンケートに寄せられ

た意見は過去6回で67件ですが、コーナーが設置される前は0件だったことを考えれば大きな成果と言えます。

「広聴」では、ただ意見を収集するという漠然とした目標ではなく、「収集情報の増量」の目標に、市民の議会に対する発言時間を確保するための様々な手法が行われています。そのひとつが「読者アンケート」であり、他にも「地域協議会との意見交換会」、「はまだ市民一日議会」、「常任委員会への申し入れ」、「議会報告会の開催」、「傍聴者アンケート」、「議長何でもメール」などです。

ちなみに、「はまだ市民一日議会」では今までに10代～80代の応募があり、議会に対して議場で持ち時間5分で意見を述べるということを行っています。一日議会の参加者の中から2名の市議選立候補もあり、市民参画からの成果を出しています。また、応募市民の最年少は小学生で、寄せられた要望は地域住民を巻き込んだ形で請願に発展しました。こういった成果が評価され、「はまだ一日議会」はマニフェストアワードでも賞をとっています。

そして「広報」では「広聴」で収集した情報をどう取り扱ったかを徹底的に知らせています。「広聴」の「収集情報の増量」に対して「提供情報の増量」を目標に「議会だよりの増刊」、「各議員個人のウェブサイト等のリンク」などを行っています。

その中で注目すべきは「議会だよりの増刊」です。増刊といっても紙面の発行は予算の関係もあり難しいことや、どうしても発刊までに時間を有するため情報鮮度が落ちてしまうことなどの欠点があるため、「はまだ議会だよりの mini」と銘打って月に一度ウェブ版にて発信しています。これにより、情報の反映がタイムリーに行われ、議会開会中でなくても議会は動いているということも伝えられるようになりました。また、1月には元旦に配信し、新年のご挨拶を行うといった柔軟な対応も可能になりました。

また、広聴広報委員会を通して各常任委員会に対して市民との意見交換の場を恒常的に設けるよう申し入れを行い、委員会のみにとどまらず議会全体としての広聴機能の強化を高めていくなどの取り組みも行っています。定例会議での執行部とのやりとりだけでなく、議会として注目すべき点を各常任委員会の視点からテーマとして取り上げ、政策立案に向け勉強会を行うなど政策形成の取り組みも継続的に行い発信しています。それについての市民からの意見をその取り組みの中で反映させるといった循環の仕組みも作っており、様々な場面で良い循環が生まれている点は本当に優れていると感じました。

一度議会視点を盛り込み回答された意見もさらに市民から違う視点で意見として返ってくるというキャッチボールが最終的に政策討論会へと発展し、市民から議会へ、議会から行政へと政策形成サイクルが定着していることも素晴らしいと感じました。こういった活動から市民は「自分たちが市政の中心にいる」ということを実感し、議会への関心を高めることに繋がっていると感じました。

また、はまだ市議会だよりは一年半前に以下の点でリニューアルがされました。

1、一般質問のページをSDGsの17項目で分類

各議員の一般質問テーマをSDGsのテーマごとに分類することで、議員がSDGsを意識しながら活動を行うこと、また、市民のみなさんとその考え方を共有していくことを目的としています。

*SDGs とは・・・持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。（外務省HPより）

2、市民対談のページを新設

議会でもちの課題を取り上げる上で、実際に活動されている市民の方々の様子を議員自らインタビューに出向き掘り下げることで、より現場を理解する広聴機能の強化につながると考え、この企画が採用されました。

3、アンケート用紙の添付

議会だよりに対する感想や議会に対する意見を常時いただける仕組みを整えました。コロナ対策の一環で議会報告会が中止となったことから、これに代わる広聴の手法として取り入れることとなったそうです。

こうしてみると、市民からの意見が議会活動の軸となっていることがよくわかります。議会活動は、執行部とのやりとりなど市民の知らないところで行われているため、それを市民に広く周知していく、または市民への市政の情報提供という、どちらかという情報を上からおろしていく作業の「議会広報活動」である自治体が多くある中で、浜田市議会は議会活動の中心にあるのが市民の声であるということが素晴らしいし、ぜひ見習いたい部分であると感じました。

最後に、通常の視察研修においても行くことが難しい島根県浜田市議会で視察を実施できるのもオンラインだからこそと感じました。まだまだコロナの影響が様々なところで及ぼされていますが、それを逆手にとって普段ではできない議会活動を展開させ、さくら市の発展へとつなげて参ります。

